

# 季刊せいてん no.133

●浄土真宗聖典の学習誌●

## 特集 <sup>さん ごう わく らん</sup> 三業惑乱 — 〈信心〉をめぐる対論



江戸時代の庶民的な仏教書とお説教 / 出版と仏教文化 幸せてなんだろう / ジレンマ  
『唯信鈔文意』 / 念仏は信心のすがた 『蓮如上人御一代記聞書』 / 灯台もとくらし

No.133

季刊

せいてん

2020.12.1(冬の号)

特集

三業惑乱—〈信心〉をめぐる対論

- 「〈三業惑乱〉の歴史」……………西村慶哉 6  
「〈たのむ〉の理解」……………能美潤史 47  
「〈三業惑乱〉が教えてくれること」……………三浦真証 50

はじめの一步Ⅰ

江戸時代の庶民的な仏教書とお説教②

- 江戸時代初期・前期の出版と仏教文化……………和田恭幸 9

はじめの一步Ⅱ

幸せってなんだろう—悪人正機の倫理学—⑩

- 現実化したジレンマと仏教……………藤丸智雄 16

聖典セミナー

- 『唯信鈔文意』⑫ 念仏は信心のすがた……………安藤光慈 22

せいてん誌上講演

『蓮如上人御一代記聞書』④

- 灯台もとくらし……………稻城選恵 30

ほとけのいる景色—アジャンター—石窟寺院 ⑧

- 「みおしえの容器」……………打本和音 40

せいてん華道教室 **新**

- 「華道の歴史—花と仏教」……………弓場洋子 54

法語随想 ④

- 「ただこのちかひありときき……」……………武田一真 56

読者のページ せいてん質問箱⑥

- 「阿弥陀仏が二人!」……………壬生泰紀 58

人ひとみな ニュートラルな考え(終)

- 「時空を超えたプレゼント」……………朝倉行宣 63

念仏者はいま 福井唯宝寺・藤下安子さん

- 「私が出遇った仏縁①」…………… 64

西の空 心に響くことば

- あるく……………榎本栄一 67

文中写真／編集室

お読みになる前に…文中に(〇〇頁)とあるのは『註釈版聖典(第二版)』、(七祖〇〇頁)とあるのは『註釈版聖典 七祖篇』のページ数を指しています。

さん ころ わく らん  
特集 **三業惑乱**  
—〈信心〉をめぐる対論



江戸時代におこった本願寺最大の教学論争、「三業惑乱」。宗義の乱れ、教団の分断、幕府の介入など、宗門の歴史に大きな傷跡を残した事件であることは間違いありません。しかし、この事件を単なる負の遺産として終わらせていいのでしょうか。「三業惑乱」は私たちに何かを問いかけているのではないのでしょうか。〈信心〉をめぐる対論に耳をすませてみましょう。

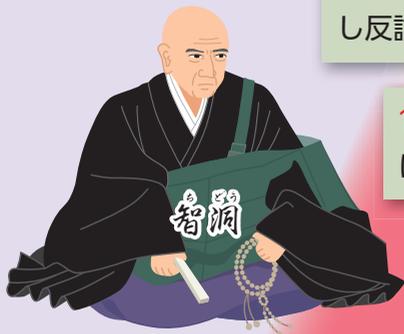
特集 目次

年表で見る「三業惑乱」の流れ	編集室…	p3
「三業惑乱」人物相関図	編集室…	p4
「三業惑乱」の歴史	西村慶哉…	p6
「たのむ」の理解	能美潤史…	p47
「三業惑乱」が教えてくれること	三浦真証…	p50
「三業惑乱」がもたらした功罪	満井秀城…	p53

# 年表で見る「三業惑乱」の流れ



功存門下学生



学林八僧



1762年 糾明

1750年  
龍養「無帰命安心」の  
異義を唱える

1764年 『願生帰命弁』 開版

1781年 宝巖『興復記』を著す

1784年 大麟『真宗安  
心正偽編』を著す

1786年頃から、功存門下の玄  
仗・崇廓らが師への批判に対  
し反論を行う

1797年 智洞、能化拝命。同年 夏安居  
において「信楽帰命説」を否定

道隠・春貞と智洞、  
度々対論する

智洞能化時代、学林の重鎮として智洞  
を補佐し、古義派の主張を痛烈に批判  
し続けた

論争が地方に拡大し、暴動が起きるなど治安が  
乱れたため、遂に幕府の干渉を受ける

1803年 京都二条奉行所において両派が対論

1804年 智洞・道隠・大瀛ら、江戸に赴き奉行所において対論。翌年、  
本願寺宗主の書状により、幕府は新義派が異義であると認定

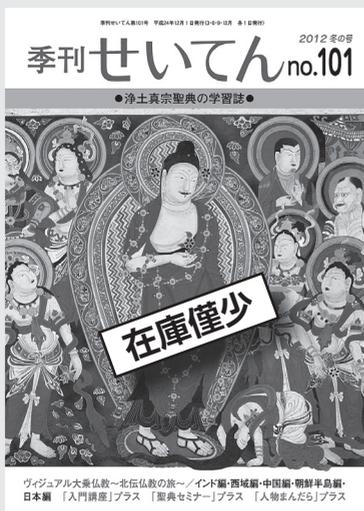
1806年7月 双方の有力者、本山の重役など多くのもの  
が刑に処せられ、本山も100日間の閉門となる

1806年11月 本山閉門が  
解かれた後、本如宗主  
『御裁断御書』を發布

# 季刊せいてん

## バックナンバーのご案内 (在庫分)

### 100号を記念しての特別号



●表紙写真●燃灯仏授図  
(バゼククリク千仏洞)

#### 101号の主な内容

☆ビジュアル大乘仏教～北伝仏教の旅～  
インド・西域・中国・朝鮮半島・日本編 丘山 新  
これまで表紙解説のコーナーでたどった仏教伝来の道を、新たに美しい写真とともに旅しました。インドから日本に伝わった仏教の大きな流れを知ることができます。

☆「入門講座」・「聖典セミナー」プラス  
観世音・大勢至一七高僧にちなんで 黒田 覚忍  
「私にとっての仏教」その後 浅田 正博  
親鸞聖人へのアプローチ 山田 雅教  
その心すでにつねに浄土に居す 森田 眞円  
『観無量寿経』のころ 徳永 一道  
『尊号真像銘文』のころ 白川 晴顕  
『一念多念文意』のころ 内藤 知康  
今まで「入門講座」「聖典セミナー」をご担当いただいた先生方に、現在の味わいをご執筆いただきました。



表紙  
●特集「わが家て解決 セルフ質問箱のすすめ」より

- はじめの一步I  
真宗(悪人)伝①(井上見淳)「顕如と教如(下)」
- はじめの一步II  
幸せてなんだろう⑤(藤丸智雄)「夜空ノムコウ」
- 聖典セミナー  
「唯信鈔文意」①(安藤光慈)「他力信心の法義」
- せいてん誌上講演  
「正信偈」②(梯實圓)「善導大師(4)阿弥陀仏に会う」
- もう1人の親鸞⑤  
「幽霊の救い」(黒田義道)

122号(春の号) 2018年3月1日



表紙写真  
●チベット仏教(1)

- はじめの一步I  
親鸞聖人の人間像①(山田雅教)「妻がつづった親鸞聖人の素顔」
- はじめの一步II  
現代人と宗教①(福永俊哉)「宗教と学問」
- 聖典セミナー  
「御文章」①(高田文英)「聖人一流章」
- せいてん誌上講演  
「正信偈」①(梯實圓)「ご恩に報いるために」
- サンカしよう  
「讃仏偈」①(若林真人・山口篤子)

102号(春の号) 2013年3月1日



表紙  
●特集「お盆、その前に」より

- はじめの一步I  
真宗(悪人)伝②(井上見淳)「弁円」
- はじめの一步II  
幸せてなんだろう⑥(藤丸智雄)「欲望は悪か」
- 聖典セミナー  
「唯信鈔文意」②(安藤光慈)「名号の撰化」
- せいてん誌上講演  
「正信偈」②(梯實圓)「源信和尚(1)日本浄土教の黎明」
- もう1人の親鸞⑥  
「枕石の物語」(黒田義道)

123号(夏の号) 2018年6月1日



表紙  
●特集「自死と念仏者」より

- はじめの一步I  
真宗(悪人)伝③(井上見淳)「顕如と教如(中)」
- はじめの一步II  
幸せてなんだろう④(藤丸智雄)「嘘は悪なのか?」
- 聖典セミナー  
「歎異抄」(終)(矢田了章)「後序一たまりたる信心」
- せいてん誌上講演  
「正信偈」②(梯實圓)「善導大師(3)仏様に認められて生きる」
- もう1人の親鸞④  
「玉日姫と恵信尼さま」(黒田義道)

121号(冬の号) 2017年12月1日

128号(秋の号)2019年9月1日

- はじめの一步I  
真宗(悪人)伝⑦(井上見淳)  
「善信房親鸞(二)」
- はじめの一步II  
幸せてなんだろう⑩(藤丸智雄)  
「不安と倫理」
- 聖典セミナー  
「唯信鈔文意」⑦(安藤光慈)  
「救われるのは誰か」
- せいてん誌上講演  
「正信偈」⑦(梯實圓)
- 「法然聖人(4)善悪を超えた世界」
- ほとけのいる景色③  
「石窟の条件」(打本和音)



表紙  
●特集「詳しく学ぶ二河白道のたえ」より



表紙  
●特集「(名人)たちの聖典」より

- はじめの一步I  
真宗(悪人)伝⑧(井上見淳)  
「金子大榮(上)」
- はじめの一步II  
幸せてなんだろう⑦(藤丸智雄)  
「信仰という幸福について」
- 聖典セミナー  
「唯信鈔文意」③(安藤光慈)  
「(自)であらわされる他力」
- せいてん誌上講演  
「正信偈」②③(梯實圓)
- 「源信和尚(2)仏さまに背きながら」
- もう1人の親鸞⑦  
「一切経校合」(黒田義道)

124号(秋の号)2018年9月1日

129号(冬の号)2019年12月1日

- はじめの一步I  
真宗(悪人)伝⑧(井上見淳)  
「善信房親鸞(三)」
- はじめの一步II  
幸せてなんだろう⑫(藤丸智雄)  
「(生きがい)から考える善悪」
- 聖典セミナー  
「唯信鈔文意」⑧(安藤光慈)  
「さどりの性質—二種法身」
- せいてん誌上講演  
「正信偈」(終)(梯實圓)
- 「法然聖人(5)深く信ずる心」
- ほとけのいる景色④  
「日本人の見たアジャンター①」(打本和音)



表紙  
●特集「数異抄」と私」より



表紙  
●特集「(空)がわからない」より

- はじめの一步I  
真宗(悪人)伝⑭(井上見淳)  
「金子大榮(中)」
- はじめの一步II  
幸せてなんだろう⑧(藤丸智雄)  
「最大多数の最大幸福(1)」
- 聖典セミナー  
「唯信鈔文意」④(安藤光慈)  
「(今)の救い」
- せいてん誌上講演  
「正信偈」②③(梯實圓)
- 「法然聖人(1)父の遺言を胸に」
- もう1人の親鸞(終)  
「親鸞聖人ご臨終の言葉」(黒田義道)

125号(冬の号)2018年12月1日

130号(春の号)2020年3月1日

- はじめの一步I  
真宗(悪人)伝⑯(井上見淳)  
「善信房親鸞(四)」
- はじめの一步II  
幸せてなんだろう⑬(藤丸智雄)  
「カレーから考える善悪」
- 聖典セミナー  
「唯信鈔文意」⑨(安藤光慈)  
「めぐる信心の」
- せいてん誌上講演  
「蓮如上人御一代記聞書」①(稲城選恵)  
「めずらしいことを聞かない、説かない」
- ほとけのいる景色⑤  
「日本人の見たアジャンター②」(打本和音)



表紙  
●特集「とにかくお念仏すること  
だ—梯實圓和上をしのぶ」より



表紙  
●特集「ふりかえる 平成の  
議論・新説・新発見」より

- はじめの一步I  
真宗(悪人)伝⑯(井上見淳)  
「善信房親鸞(一)」
- はじめの一步II  
幸せてなんだろう⑩(藤丸智雄)  
「(いつの間にか)の倫理」
- 聖典セミナー  
「唯信鈔文意」⑥(安藤光慈)  
「誰もえらび捨てない救い」
- せいてん誌上講演  
「正信偈」⑥(梯實圓)
- 「法然聖人(3)回心の内景」
- ほとけのいる景色②  
「千年の閻堂」(打本和音)

127号(夏の号)2019年6月1日

◆『季刊せいてん』バックナンバーのご案内(在庫分)

●これまでの主な特集記事●

- No. 100……100号記念 勸学と上へ聞く  
①聖教の真実性と布教伝道について 梯實圓  
②聖典編纂事業と『季刊せいてん』  
徳永一道・内藤知康・佐々木恵精
- No. 102……飛雲閣と聚楽第一聚楽第の遺構か否か
- No. 121……自死と念仏者
- No. 122……わが家で解決 セルフ質問箱のすすめ
- No. 123……お盆、その前に
- No. 124……(名人)たちの聖典—存覚・從覚・円如—

\*『季刊せいてん』誌のバックナンバーは部数に限りがございますので、品切れの場合はご容赦願います。

お申し込み・お問い合わせは  
本願寺出版社

☎ 0120-464-583  
FAX 075-341-7753

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル  
1冊 700円(税・送料込)

商品に払込取扱票を同梱しますので、郵便局もしくはコンビニエンスストアで料金を払い込みください。

連載 クローズアップ

《せいてん誌上講演》「正信偈」

102号~129号

梯 實圓

本願寺の碩学、故・梯實圓和上に  
よる「正信偈」の講演録です。  
親鸞聖人のみ教えの結晶ともいえる  
「正信偈」をやさしく講演いただい  
ています。梯和上の警咳に接している  
ような臨場感にぜひふれてください。



# 季刊せいてん 定期購読のご案内

\*本誌を毎号入手していただくために定期購読をお勧めします。

●年間購読料 2,800円 (税・送料込み)

▲年4回 (3・6・9・12の各月) 発行

\*1部からでもお求めになれます。

●1部 700円 (税・送料込み)

※同じ号を一括して多部数お申し込みいただいた場合には、  
部数割引させていただきます。(10部以上10%・50部以上20%)

・お申し込みは↓・

本願寺出版社  0120-464-583 FAX 075-341-7753  
よむよ ごわさん  
〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル <http://hongwanji-shuppan.com/>

## 編 集 後 記

◆「諸行無常・諸法無我・一切皆苦・涅槃寂靜」という仏教の四つの旗印にそって、テクノ法要開催の思いを綴った朝倉先生の連載が終了しました。「テクノ法要」は常にバージョンアップしています。YouTubeなどでチェックしてみてください。

◆「念仏者はいま」は、福井県の唯宝寺前坊守・藤下安子さんの登場です。藤下さんの人生の歩みを支える、他力のはたらきを感じてください。(S)

◆今号より始まりました弓場先生の「せいてん華道教室」。初回は、華道の根底を流れる仏様のおしえについてご執筆いただきました。先生とのお話の中で、私がお供えする仏華が、そのまま私を導いてくださる仏様のおはたらきであると改めて感じさせていただきました。(R)

◆Amazonと楽天ブックスにて本誌の販売がスタートしました

(受注生産)。これまで売り切れだったバックナンバー(100号以降)も購入いただけるようになっています。これで、ご希望の多かった梯和上の誌上講演も通してお読みいただけます!

◆特集では三浦先生に多くのご助言を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。特集でご紹介した先生のご著書は、本当にお勧めです!(D)

◆今号は全体的に「現実の中で宗教をどのように考えるか」が問われていたように思います。和田先生の、江戸時代における「メディアの中の宗教」の問題のご指摘からは、メディアが社会の趨勢を作り出している現在、メディアとどのように対峙していくかを模索し続けなければならないと考えさせられました。「世間を軽視すべきではない」という稲城和上のお言葉も印象に残っています。(J)

## |||||||||||| 投稿募集 |||

◆本誌に対するご感想やご意見、聖典講座についてのご質問など、ふるってご投稿ください。皆様からのお便りをお待ちしております。  
◆あて先は、「〒600-8501 浄土真宗本願寺派総合研究所 季刊せいてん編集室」とご明記ください。  
◆お送りいただきました原稿はお返しできません。◆掲載分には記念品をお送りいたします。

## 季刊せいてん

NO.133 令和2(2020)年12月1日発行

編 集 \_\_\_\_\_

浄土真宗本願寺派  
総合研究所

〒600-8349

京都市下京区堺町92番地

発 行 \_\_\_\_\_

本願寺出版社

(浄土真宗本願寺派)

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル

本願寺門前町60番地

電話 075-371-4171

本誌記事の無断転載を禁じます。BD.04SH①21-02